

デジタル・リテラシーと ICT 分野へのインド女性の参画、教育、エンパワーメント

ネハ・ベカンデ=ヒンゲ（インド）

情報通信技術（ICT）には、社会に変革をもたらし、女性を経済の強力な柱に育てる能力があります。例えば、正規の学校教育を受けてはいないものの、工芸技術や裁縫、かご編みなどのスキルに長けている女性は、ICT をプラットフォームとして活用し、Facebook を使ったビジネスで自分を宣伝することができます。しかし、社会経済的・制度的な制約から、インドではジェンダーによる情報格差（デジタル・デバイド）が大きく、それは女性の ICT へのアクセスと利用の低さに表れています。

女性の ICT 利用者が少ない理由

インドで実施された「全国家庭保健調査 2019-2020」（出典：<https://pib.gov.in/Pressreleaseshare.aspx?PRID=1680702>）によると、60%以上の女性がインターネットを利用したことがないという結果が出ています。性差別や社会経済的な制約といった様々な要因により、多くの女性は男性と比較すると ICT へのアクセスができていません。その主な要因として、以下の3つが挙げられます。



インドの約 22 州の女性の 60%がインターネットを利用したことがありません。

（出典：<https://www.developmentnews.in/digitally-empowering-women-rural-india/>）

言葉の壁 地方の女性にとっての障壁の一つは、自身の母語で書かれた資料がないことです。インドには約 122 の主要言語があり（出典：https://www.researchgate.net/publication/262843168_The_Status_of_Indian_Languages）、地方の言語で資料を作成するのは困難です。情報技術についてのコンテンツ開発を地方の言語で行うには、多くの時間と専門知識が必要となります。

ワーク・ライフ・バランス カスペルスキーによる報告書「IT/テック業界の女性たち」（参考元：<https://www.kaspersky.co.in/blog/women-in-tech-2021/22425/>）によると、新型コロナウイルス感染拡大に伴う在宅勤務は、女性の可能性を妨げています。社会的な性別役割分担により、女性は男性に比べて家事労働や子供の家庭教育、その他の責務に多くの時間を割かなければならないからです。ワーク・ライフ・バランスは、未だに実現不可能な虚構です。この不均衡は、女性の身体的・精神的疲労や、職場における女性従業員の離職につながっています。

職場における目に見えない偏見 インドでは現在、IT 分野における労働人口の 34%が女性です（出典：<https://economictimes.indiatimes.com/jobs/more-women-in-it-cos-now-work-on-their-growth/articleshow/81195724.cms>）。それにもかかわらず、社会的な相互依存や制約のために、社会や ICT 業界は女性が科学技術の分野でキャリアを積むことを妨げています。職場での認識の遅れや無視、ジェンダー・ハラスメント、不平等な扱いなどは、ICT 分野で働く女性を減少させる要因となっている数多くの隠れた偏見のごく一例です。

女性の ICT アクセス向上のための行動

デジタル・デバイドを解消するためには、あらゆる社会経済的階級の女性たちが、技術の進歩による十分な恩恵を受けるために必要なスキルを理解し、身につけることが必要です。この目標を達成するためのアクションの例をいくつか紹介します。

早期メンタリング 若い女性や少女のエンパワーメントを促進するには、早期の指導・助言が重要であり、それによって ICT を活用するための学習機会の質を高めることができます。このようなメンタリングには、ICT 業界のキャリアや可能性、そして STEM 分野や ICT の発展と普及について認識を高めることが含まれます。

トレーニングプログラム ICT トレーニングプログラムは、貧しい農村地域の少女たちに提供されなければなりません。また、正規の教育を受けることができなかった女性にも、学習の機会を提供しなければなりません。これらのプログラムは、女性が非伝統的な分野で活躍するのに役立ちます。

教育からエンパワーメントへ 公平な教育は、女子学生が高等教育を無事に修め、技術分野でのキャリアを目指す意欲を持つようになるための鍵となります。また、ICT を重視した教育により、女性の就職機会の均等化を図ることができます。

政策の策定と実施 女性に学習の機会を提供するための政策が必要です。既存の組織や教育機関には、地方の女性を援助するプログラムを実施するための部署を設置する必要があります。

インドでは、伝統的な性差別や社会的制約が、ICT における女性の活躍を阻んでいます。ICT へのアクセスと利用が社会経済の成長につながるのであれば、女性がこれらの技術を理解し、利用することは極めて重要です。ICT は女性のエンパワーメントとより良い教育をサポートし、女性活躍の機会を生み出すのです。